

ITS 世界会議東京 2013 に向けて

ITS 世界会議東京 2013 日本組織委員会事務局

1 「ITS 世界会議東京 2013」開催準備

2009年5月、韓国・釜山での世界会議理事会において東京開催が決定されて以降、下記の会議体を立上げ、開催基本計画や収支計画の策定、組織・体制の整備等の準備活動を行ってきた。

- ①準備会議、WG：2009年10月発足
- ②企画・運営委員会、部会：2010年7月発足
- ③日本組織委員会：2010年10月12日発足

2011年4月からは、新たな事務局体制を整備して本格的な準備活動を行っている。

1-1 日本組織委員会の立ち上げ

「ITS 世界会議東京 2013」の推進組織は、審議・承認機関である日本組織委員会のもと、世界会議開催に必要な事項に関して原案を作成する6つの部会と、部会の進捗を管理するとともに、部会原案の審議・調整を図る企画・運営委員会からなる構成を基本とした。

日本組織委員会には、省庁、地方自治体、学界、民間企業・団体等、産官学の代表の方々から参加いただいて

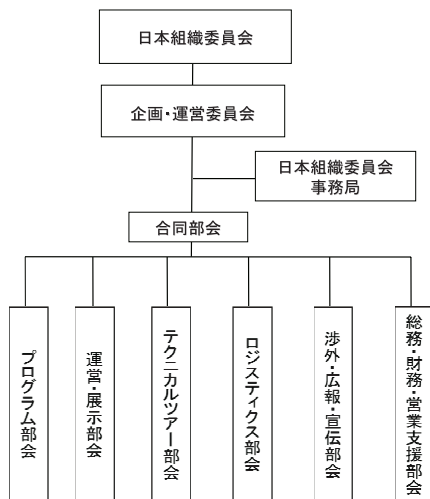


図1 《推進組織の基本構成》

いる。「ITS 世界会議 愛知・名古屋 2004」に比較して、スリムで迅速な決定が行える組織を目指した。

第1回日本組織委員会は、2010年10月12日、東京・芝のメルパルク東京にて開催され、開催基本計画（第1次案）、収支計画（第1次案）、事務局体制（案）などが承認され、第2回日本組織委員会は、2011年10月11日、東京芝パークビル AP 浜松町にて開催され、営業企画案、運営展示業者などの承認がされた。

2 「ITS 世界会議東京 2013」の目的と開催理念

2-1 「ITS 世界会議東京 2013」の目的

「ITS 世界会議 愛知・名古屋 2004」以降、セカンドステージに入った日本の ITS を新たなステージにステップアップさせることを目指し、欧米、アジア・太平洋地域をも視野に入れ、東京世界会議の目的を、下記とした。

① ITS による現代の交通社会のイノベーション促進

ITS の活用分野を、交通問題解決だけでなく社会システム全体の課題解決に拡大することにより、現代の交通社会にイノベーションを起し、市民生活に活力を生み出すとともに我が国及び世界の経済発展に寄与する。

② 世界の ITS のグローバルな進展促進

日米欧3極とアジア・太平洋（AP）諸国等における発展途上国との相互の連携を拡大・強化することにより、世界の ITS の円滑な進展に道筋をつけ、ITS のグローバルな進展に寄与する。

2-2 開催理念

上記の目的に沿って開催理念を下記のように設定した。

- ①環境・エネルギー・交通問題に対し具体的な解決策を提示する世界会議
- ②豊かな市民生活や活発な経済活動が営まれている未来

社会を提示する世界会議

③ ITS のグローバルな進展を促進する世界会議

④ ITS メガシティの将来像を提示する世界会議

3 開催概要

名 称：「第 20 回 ITS 世界会議東京 2013」

開催日程：2013 年 10 月 14 日（月）～ 18 日（金）

開会式：2013 年 10 月 14 日（月）東京国際フォーラム（予定）

セッション & 展示会、閉会式：

2013 年 10 月 15 日（火）～ 18 日（金）

開催テーマ：“Open ITS to the Next”

収支計画：8.2 億円で設定

主催：ITS 世界会議東京 2013 日本組織委員会

開催規模：

会議登録者数：4,000 人、参加者数：8,000 人、

参加国数：60 ヶ国

出展コマ数：700 小間、論文数：1,000 件、

セッション数：250

ITS (Intelligent Transport Systems) 世界会議では ITS に関する世界の政府、学会、民間企業、団体を一堂に会して、会議セッション、論文発表、講演、技術展

示、体験型デモ、ITS 施設の現場見学など複合的なイベントが実施される。ITS の世界的理解促進、普及促進によって、よりよい交通社会の実現と人々の生活の質の向上を図ることを目的に会議を開催する。ITS 世界会議は 1994 年にパリで第一回が開催されて以来、アジア・パシフィック、アメリカ、ヨーロッパ、3 地域持ち回りで毎年開催されている国際会議であり、日本での開催は 2004 年の名古屋以来となる。

2013 年の開催テーマの“Open ITS to the Next”は、次世代の ITS は、環境・エネルギー・安全・渋滞解消などの交通問題の解決、人々の生活の質の向上と同時に、災害や不測の事態への的確にしてスピーディーな対応という社会の要請に応え、融合新産業の創出を目指せるものであり、そのために ITS は、グローバルに誰にでも、様々な機会や挑戦するためのオープンな形のネットワーク社会を提供するという意味を込め設定した。

ロゴマークとしては、東京都のシンボルマークの緑を基調にデザインし、2012 年春開業予定の東京スカイツリーを、東京を象徴する建物として採用。

環境と震災後の勇気・元気の意味をこめて、東京スカイツリーをブルーに彩色。



図2 ロゴマーク

〈東京国際フォーラム〉



〈東京ビックサイト〉



4 「ITS 世界会議東京 2013」参加要領

「ITS 世界会議東京 2013」参加の方法としては会議参加登録だけでなく、展示会出展、論文発表、スポンサーという4種類である。日本組織委員会としては会議を通じて世界のITS最先端情報収集や体験をすること、研究成果発表、ビジネスにもつながる効果的な企業活動PR、経験や知識の共有/交流ができ、ITS関係の世界各国の官学産業界のネットワークを広げることでもあるという世界会議をより一層進めていけるように基本計画を作成中。

具体的な参加募集時期：

- ①会議参加登録 2013年4月より登録開始
- ②展示会出展者募集 2012年4月より募集開始
- ③スポンサー募集 2011年10月募集開始
- ④論文募集 2012年6月より募集開始

5 現在までの準備状況概要

5-1 基本計画の検討・策定

プログラムのコンセプトや各セッションなどの会議運営の検討、運営展示に関する参加要領の検討や各種式典の企画、ショーケース・テクニカルツアーの募集及び体験・提示方法の検討、開会式と会議・展示場所が異なることによるロジスティク面での検討、各部会にて想定の子算の削減検討や収支計画に基づく展示、会議登録等の費用の値付けを含む営業・渉外活動計画の検討を進めている。

5-2 PR活動について

- ①1stアナウンスペーパーの発行（オランダのITS世界会議での配布）

日本組織委員会の2トップである開催都市東京の石原都知事とITS Japan 渡邊会長の開催に関わるコメ



写真1 1stアナウンスペーパー



写真 2 オーランドでの東京会議 PR レセプションの様子（鏡割りで乾杯）

ントを含め、開催概要、参加要領などを記したパンフレットを英語、日本語2種類作成し様々な活動において2011年10月から配布している。

②各種 ITS 関連会議での PR

ウィーンでの理事会（2011年5月）、台湾の高雄でのアジアパシフィックフォーラム（2011年6月）、オーランドの ITS 世界会議（2011年10月）などで ITS 世界会議東京 2013 の PR 活動を行っている。

6 最後に

前章でも述べたように、現在まさに、会議セッション、論文発表、講演、技術展示、体験型デモ、ITS 施設の現

場見学など複合的なイベントとしての ITS 世界会議東京 2013 の基本計画を検討作成しているところです。

オーランド世界会議を含め最近の世界会議の内容を整理しながら、第 20 回大会としての世界会議として、東京で意義のあるものとするべく委員会、事務局の全員で知恵を絞っています。

また、ITS の概念、活躍領域、導入地域がますます広がっていき、それと合わせて「日本を元気にする」ためにもたくさんの方々の参加が図れるように計画していきますので、ITS 関係者の方々には、協力、ご支援をお願いするとともに、様々な形で「ITS 世界会議東京 2013」に参画していただきたいと思います。